

4期連続ボーナス低額回答

夏季手当 1.64カ月。過去3回のボーナス半減で56億～80億円のカット（社員を8000人とした場合）、BPRで削ったのが140億円と社員に多大な犠牲を強いておきながら、その恩を仇で返すといった体たらくは、もはや不誠実の一言だけでは済まされません。中には「西（JR西日本）よりも高いから満足！」「最初、会社は1.3を提示していたみたいだから大分頑張った！」といった声も聞こえますが、**会社はコロナ前、ボーナス支給について何と書いていましたか？**息をするように嘘をつく。ここ最近の社内報にも「業績目標が達成されればボーナスも元通り！」といったことが恥も外聞もなく書かれていたことから、会社が社員を馬鹿にしているのは明白です。

そして、今回も臨時貸付制度があるらしく、これまで住宅ローンの支払いのために毎回貸付を受けてきた社員は今後、毎月2万円の返済が待ち受けています。会社は社員に対し「モチベーション」を上げると寝言を言っていますが、**借金返済のための過重労働のどこに「モチベーション」を上げる要素があるのかという話。**世間では物価が大幅に上がり、反対に年収は減らされる。それだけではなく、借金に借金を重ね、月々の給料から貴重な生活費の一部であるはずの「2万円」が天引きされるのは、心理的には「10万円」を失うほどの負担を強いられると言っても過言ではありません。こうした状況は、もはや人気漫画「カイジ」の「※地下労働施設」と同じ。

※地下労働施設（帝愛グループ）

漫画「カイジ」の世界において、絶大な権力を掌握している「帝愛グループ」が所有する「地下王国」の一部で、莫大な借金を「帝愛グループ」から抱え返済の見込みがない、劣悪債務者たちがたどり着く終着地点。この地下帝国における通貨である「ペリカ」は、日本円の10分の1のレート（100円＝1000ペリカ）で、真面目に働いた1カ月の給料は91000ペリカ（日本円で9100円）。もっとも、施設内で販売される商品は外のコンビニの約2倍の値段というぼったくり価格であるため、実際の価値はその半分（4500円）しかない。まさに底辺の世界。



「賭博破戒録カイジ 地下強制労働編」より抜粋

当然、私たちはこの「地下帝国」を笑えない。なぜなら、わが社の社員は自ら浪費に走った結果、借金をしているのではなく、**一生懸命に働いた結果、本来貰うべき「対価」を会社に取り上げられ、それを無理やり「借金」として負わされているからです。**こうした意味では、私たちの労働環境というのは、「カイジの世界」よりも悪質かつ理不尽であると言わざるをえません。ただ、もし、この「地下帝国」にも「労働基準法」があり「帝愛」側は労働者との「交渉」を拒むことが出来ないとしたら、どのような展開になるのでしょうか？わが社においては、その「労働組合」があるにもかかわらず、なぜか蔑ろにされる。不条理の元凶はここにあるとしか思えません。